

3. 読みましょう

CD40

読むときのポイント

- ・記憶型と注意型の違いについて書いてあるところを探しながら、読みましょう。
- ・テストの結果について書いてあるところを探して、_____を引きましょう。

記憶型と注意型

わたしたちは、毎日多くの失敗をしながら生きている。財布を忘れたり、間違い電話をかけたたり、酒を飲んで帰る家を間違えたり。失敗で命をなくしてしまうこともある。日本では交通事故で毎年1万人くらい死んでいるが、その原因のほとんどは運転手のミスである。飛行機事故、工作中的の事故、家庭での事故、これらの原因もほとんどがヒューマンエラーである。病院で手術をする患者を間違えるという事故もあった。人はなぜ失敗をするのだろうか。どうすれば失敗しないようにできるのだろうか。

心理学者のリーズンは、学生たちが日常生活でおかすうっかりミスを研究した結果、「記憶」型と「注意」型の2つの型があることを発見した。記憶型の人は「やり忘れる」失敗が多く、注意型の人は「やってしまう」失敗が多い。

ここで前のページで行ったテスト結果について考えてみよう。奇数番号は記憶型かどうか調べるもので、丸が4つ以上ある人は「ぼんやり」、6つ以上あったら「かなりぼんやり」である。こういう人はいつもメモを取るとか、チェックリストを見ながら仕事をするとか、思い出す手がかりになるものを準備するなどが役に立つだろう。

一方、偶数番号に丸が3つ以上あったら、「あわて者」、5つ以上なら、「かなりあわて者」である。仕事を始める前に一度深く呼吸するとか、指を指して確認してから操作するなどを習慣にするという。

偶数番号にも奇数番号にも丸が多い場合は「ぼんやりしたあわて者」ということになる。では、どちらにも丸が少ない人は？ 聖人君子か大うそつきか、または自分がエラーをしていることに気がついていないか、忘れてしまっているいちばん困った人かもしれない。

(芳賀繁 『失敗のメカニズム-忘れ物から巨大事故まで』
日本出版サービスより、一部を改変して掲載)

